

## 連携研究テーマ 『かかわり合う力』をはぐくむ

### 本研究ではぐくみたい「かかわり合う力」

- ①「もの」や「こと」に対して興味・関心や課題意識をもちながら、物事の本質について追究していこうとする資質や能力（「もの」や「こと」…教材や課題、社会現象や身近な環境など）
- ②周囲の「ひと」と主体的にかかわり、自ら働き掛けることで健全な人間関係を築いていこうとする資質や能力

平成16年度の大学の法人化に伴い、特色ある附属学校園づくりの一環として、幼稚園・小学校・中学校・養護学校（現：特別支援学校）が校種の枠を越えた教育研究に取り組もうと立ち上げられた。平成27年度までの12年間にわたり、各校園の独自性を生かしながら校種間の接続や指導方法の連続性を模索してきた。その後、平成28年度からもテーマを継続し、連携のさらなる充実を目指してきた。

### 成果と課題

#### 附属幼稚園



幼児が日々楽しんでいる遊びを中心に各校と交流を行った。幼児にとって、普段の遊びを基に交流を展開したことで、自分たちの遊びの楽しさを再認識したり、言語化したりする貴重な経験となった。また「交流のための活動」ではなく、幼児の日常から立ち上がった「自然な交流」になり、幼児にとって、実感や必要感が伴うものになった。今後も、互恵性のある交流の充実に努めたい。

#### 附属小学校



今年度は校種間連携においても、研修会への相互参加や協議を通して学びの接続を意識することができた。また、大学教員の伴走支援を受け、日常の授業づくりにおいても専門的な立場からの意見をもらいながら、教育活動を行うことができた。今後も、各校園間や大学との連携をさらに緊密にし、発達の段階に応じた資質・能力を育む教育活動の更なる充実を図りたい。

#### 附属中学校



令和5・6年度に引き続き、家庭科・英語科・音楽科の交流事業を通して、他校園との交流を図ることができた。また、今年度は附属小学校の情報科公開研究会を附属中学校も共同で開催することができ、教員間の交流も図ることができた。四校園の子ども同士・教員同士の交流を通して、教育のつながりを強く意識する契機とすることができた。

#### 附属特別支援学校



各附属校園との交流活動は、日頃の学習を通して身に付けたことや本校ならではの取組を発信する機会となっており、それと同時に、他者とのかかわりを広げ、学びをより豊かにする貴重な学習経験を得ている。幼・小・中それぞれの段階に応じた多様な交流を通して他者理解を深めるとともに、今後も共生社会の実現に向けて望ましい関係性や交流の在り方を検討していきたい。

## 令和8年度 附属校園公開研究会の御案内

### 附属校園連携研究テーマ 『かかわり合う力』をはぐくむ

令和9年  
2月5日(金) 【特別支援学校】

「児童生徒の自分らしい未来につながる『個別最適な学び』の探究」  
(第2年次)

令和9年  
1月28日(木) 【附属幼稚園】

「持続可能な社会の担い手を育む環境とその援助」  
～子どもが夢中になって遊ぶ教育課程を目指して～  
(第5年次)

令和8年  
11月13日(金) 【附属中学校】

「よりよい生き方を探究する生徒の育成」  
(第3年次)

令和9年  
1月29日(金) 【附属小学校】

「自ら学びを切り拓く(Ⅱ)」(第1年次)  
兼 研究開発学校発表会(最終年次)

## 連携研究テーマ

# 『かかわり合う力』をはぐくむ

## 連携実践のまとめ



# 令和7年度の実践



- 1 子供の発達段階に応じた緩やかな接続を図ることで、各校種間の接続期における子供の負担を減らすこと。
- 2 教員同士の情報交換を密にすることで、心の教育や子供の理解の在り方、基礎基本を徹底する学習指導について関連を持たせること。
- 3 附属校園内の子供同士の交流活動の場を大切にすることで、健全な人間関係を築くこと。
- 4 幼小中と特別支援学校が連携を図ることにより、特別な支援を必要とする子供の実態を把握し、適切な支援の在り方を探っていくこと。



## 【〔幼〕・〔小〕に関わる取組】

小学校の休み時間に、年長5歳児が校庭に遊びに行き、1年生と一緒に遊んだ。その交流をきっかけに、年長児の遊びを1年生も体験した。後日、小学校に招待してもらい、1年生の1日を体験する交流会を行った。年長児は、小学校での生活のイメージを具体的にもつことができ、期待感を膨らませた。



## 【〔幼〕・〔中〕に関わる取組】

令和5・6年度に引き続き、中学3年生が家庭科の「保育」に関わる学習の一環として附属幼稚園を訪れた。無邪気に遊ぶ幼児の姿に幼少期の自分の姿を重ねながら、遊びを通して保育に対する学びを深める姿が見られた。今年度は国語科と家庭科の共同で作成した絵本の読み聞かせも行った。幼児にとっても、保護者や教員とは異なる立場である生徒との関わりを通して、他者との関わり方について学びを深める姿が見られた。



## 【〔幼〕・〔特〕に関わる取組】

卒園記念品づくりを通して年長5歳児と高等部生徒が交流した。12月は園児が特別支援学校を訪問し、製作の様子を見学した。園児は目を輝かせて見入り、高等部生徒も製作意欲を高めることができた。2月は高等部生徒が幼稚園を訪問し、製作したペン立てや茶わんを届けるなど、互いに心に残る交流となった。



## 【〔小〕・〔特〕に関わる取組】

附属小学校の中学年と特別支援学校のわかば学級・あおば学級が交流を行った。わかば学級は9月と11月に附属小学校を訪れ、互いの学校を紹介したり、3年生と一緒に玉入れやリズムックを楽しんだりした。あおば学級は、昨年度の交流を踏まえて4年生と交流し、ポッチャやクイズを通して互いの理解を深めた。交流を重ねるごとに心の距離を縮め、かかわりが深まる様子が見られた。



## 【〔中〕・〔特〕に関わる取組】

中学部1～3年生と附属中学校3年生の生徒がオンライン会議システムを用いて交流した。特別支援学校からはクイズ形式の学校紹介や中学部3年生の職場体験の紹介を行い、附属中学校からは学校紹介と合唱祭の紹介を行った。互いの学校への関心を深めることのできる交流となった。



## 【〔小〕・〔中〕に関わる取組】

英語科では、中学1年生が授業で作成したグリーティングカードを小学6年生に送った。また、中学進学を控えた小学6年生に対して中学1年生が英語を用いた学校紹介を行った。学校紹介は小グループで行い、質疑応答を通して、交流を深めることができた。

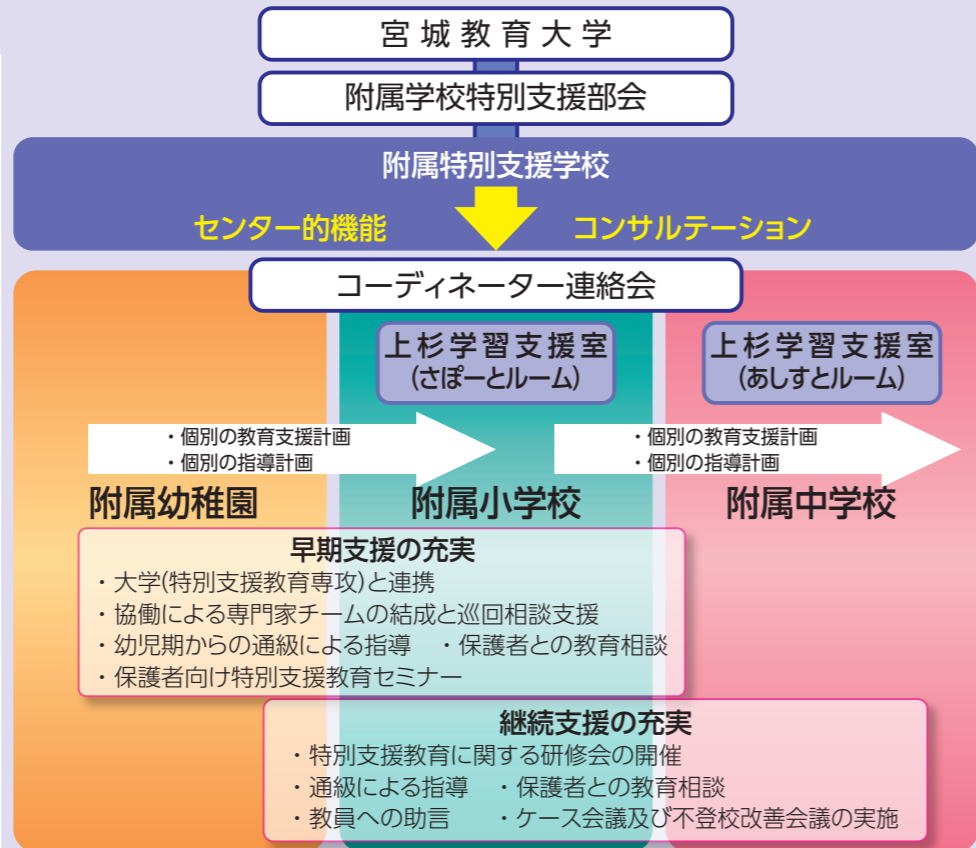
## 二つの上杉学習支援室を中核に据えた特別支援教育の充実に向けた取組

### 上杉学習支援室(愛称: さぼーとルーム、あしすとルーム)とは

附属小学校と附属中学校内に設置された通級指導教室です。担当者は、附属特別支援学校の教員でそれぞれ附属小学校と附属中学校を兼務し、日々子供たちの支援にあたっています。特別支援学校のセンター的機能を活用した附属四校園の連携強化によって、附属幼稚園入園から附属小学校を経て、附属中学校卒業まですべての子供たちの特別な教育的ニーズに応えるため「一貫した」「継続した」「長期的支援」を実施する体制を整えています。

### 上杉学習支援室の取組

- ①特別な教育的ニーズ(読み書きの苦手さ、対人面やコミュニケーションの苦手さ、不登校、登校しぶり等)のある子供たちへの通級による指導(個別指導)
- ②保護者との教育相談
- ③保護者向け特別支援教育セミナーの開催
- ④教員への助言
- ⑤大学教員(特別支援教育専攻)、作業療法士、言語聴覚士、スクールカウンセラーとの連携と巡回相談の実施
- ⑥各校園の特別支援教育コーディネーターとの連携
- ⑦外部機関(医療機関、相談機関等)との連携
- ⑧特別支援教育に関する研修会の企画・運営
- ⑨取組や研究成果の発信(公開研究会、学会等)



### その他の連携

教育実習、ICT活用への取組、大学出前講座など、今年度も継続して連携を図りながら、教員と大学が新たな連携の在り方を模索してきました。

## 大学との連携・教員の連携

### ■ 大学との連携：年間を通じた専門的立場からの伴走支援

公開研究会や研究授業、研究保育の場面に限らず、日常の保育や授業において大学教員による専門的な立場から意見をもらって実践研究を進めている。年間を通じた研究協力により、各校園の課題に応じた具体的な助言を得る機会が増えたことで、教育活動に生かすことにつながった。

### ■ 教員間の連携：学び合う文化と校種間の接続

公開研究会の実施に当たって各校園間・各教科部間で協議を行ったり、各校園が主催する公開研究会や研修会へ互いに積極的に参加したりしながら、校種間の接続を意識した教育活動の質的向上に努めている。特に特別支援教育では、年4回の「特別支援コーディネーター連絡会」等を通じた事例検討など、教育的ニーズに即した密な情報共有を継続している。校種を越えて教員が共に学び合う姿勢が、子供の育ちを支える基盤となっている。

### ■ 連携のかたち：柔軟な方法による連携の充実

連携にあたっては、対面での打合せに加え、オンライン会議やチャットツールを用いた日常的な打合せなど、ハイブリッドな手法を柔軟に選択している。今後も、スピード感のある情報共有と質の高い対話を両立させることで、よりよい連携の在り方を検討していきたい。